



え、函館市、札幌市、登別市が連携し、それぞれの強みを生かしながら新たな魅力開発を行い、平成29年から3市を結ぶテーマ・ストーリー性を有する魅力ある周遊ルート『北海道ドラマティックロード』の構築を進めていきます。

○JR登別駅のバリアフリー化に向けた取り組み

東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、隣町の白老町では民族共生象徴空間が整備される予定であり、これまで以上に多くの観光客が当市を訪れることが見込まれることから、国内外からの来客を迎える玄関口であるJR登別駅のバリアフリー化や周辺整備について、観光客をはじめ、障がいのある方も安心して観光を楽しむことができるよう、取り組んでいく必要があります。改修に向けては、観光都市としてホスピタリティをさらに向上させるためにも登別市の財政出動を覚悟し、国などの補助の活用を模索しながら、実現に向けてJR北海道をはじめ、多くの民間企業の理解と協力を得ていきます。

具体的には、登別商工会議所が中心となって設置した『登別観光まちづくり円卓会議』と『登別地区観光まちづくり協議会』において各団体

と一体となって協議を続けるとともに、JR北海道など関係機関との情報交換や協議を進めていきます。



▲多くの来客を迎え入れる登別観光の玄関口「JR登別駅」

○観光資源の発掘

当市の観光産業のさらなる躍進を目指すためには、これまでの観光地を拠点とした観光施策のみを展開するのではなく、全市観光の視点のもと、市内民間事業者と連携しながら幅広く事業を展開することが中長期で肝要であると認識していますので、工場見学をはじめ、透析が必要な方も安心して観光できる環境整備など、市内全域を観光素材として見つめ直し、その魅力を無理なく一つずつ掘り起こしていきます。

また、観光産業に従事する人材も観光地としての魅力と捉え、日本工学院北海道専門学校と連携し、観光産業を支える人材育成に努めます。

○ふるさと納税

まちの魅力発信の手法の一つとして有効なふるさとまちづくり応援寄附金については、クレジットカード決済の導入や返礼品の追加などにより、平成28年度の寄附金額は1億6千万円を超えたところです。寄附の増加は、登別が誇る農水産物などの返礼品を通じ、地域の活性化につながっており、また、当市の魅力を発信する絶好の機会ですので、平成29年度は、首都圏をメインのターゲットとして捉え、全国誌での広告掲載や全国チェーン店が発行する冊子においてPRするなど、より効果的な情報発信が行えるよう取り組んでいきます。



▲魅力的な返礼品を紹介する、ふるさと納税のパンフレット

○創業支援

観光産業はもちろん、活気あふれる

地域経済を実現し、民間活力を高めるためには、雇用を生み出し、産業の新陳代謝につながる創業支援を行う必要があります。

そのため、創業支援については、産業競争力強化法に基づき策定した『創業支援事業計画』の国の認定を平成28年12月に受けることができましたので、ワンストップ相談窓口を設置し、創業支援対象者の掘り起こしのための創業セミナーや、創業に伴う知識を習得するための創業スクールを開催などを行う登別商工会議所と連携しながら、創業支援事業の推進に取り組んでいきます。

また、創業者の負担を軽減するため、事業所開設費補助金や空き店舗活用事業補助金を継続し、創業による地域経済の活性化を図ります。

堅固な都市基盤で
安全安心なまち

安全安心なまちづくりのため、市民生活にとって欠かすことのできない道路や公共施設、上・下水道などの都市基盤を計画的に整備していく

近年、公共施設の老朽化への対応が全国の自治体で大きな課題となっており、当市も同じく老朽化した公共施設や水道・下水道などの都市基